

青梅市文化財ニュース

第 1 9 3 号

平成 1 5 年 1 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室（青梅市駒木町 1-684 0428-23-6859）

大荷田丘陵の鳥類の変化

青梅市の南東部を流れる大荷田川流域は、大荷田丘陵と呼ばれ、丘陵性の動植物を観察するのに適した地域です。平成 2 年(1990)の 1 月から 12 月にかけて、大荷田丘陵で個人的な野鳥のセンサス調査(種類、個体数の調査)を月 1 回、行いました。今年(平成 15 年)も同様な調査を行っています。そこで、野鳥にとって重要な繁殖期(4~6 月)における種類数について、両年を比較してみました。これは、月 1 回のセンサス調査日のみを対象にしています。

平成 2 年(1990)の調査

4 月：カルガモ、オオタカ、キジ、キジバト、カワセミ、アオゲラ、コゲラ、ヒバリ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、トラツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、コジュケイ
30 種

5 月：カルガモ、キジ、キジバト、カワセミ、アオゲラ、コゲラ、イワツバメ、キセキレイ、セグロキセキレイ、ヒヨドリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、コジュケイ
24 種

6 月：カルガモ、キジ、キジバト、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ
21 種

平成 15 年(2003)の調査

4 月：キジ、キジバト、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ヒヨドリ、トラツグミ、ウグイス
キビタキ、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワ
ラヒワ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ、ガビチ
ョウ

5 月：カルガモ、キジ、キジバト、アオバト、ツツドリ、ホトトギス、アオゲラ、コゲラ
ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、キビタキ、エナガ、ヤマガラ、シジ
ュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソ
ガラス、ハシブトガラス、コジュケイ、ガビチョウ

26 種

6 月：トビ、キジ、キジバト、ホトトギス、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、キ
セキレイ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、エナガ、ヤマガラ、シジュ
ウカラ、メジロ、ホオジロ、イカル、スズメ、ハシブトガラス、コジュケイ、ガビ
チョウ

23 種

総種類数は、平成 2 年が 34 種類、平成 15 年が 32 種類で、あまり大きな差はありません。
しかし、各種類毎に見ると違いがでてきます。最も大きな違いは、平成 2 年には記録のな
かったガビチョウが、平成 15 年には定着していることです。ガビチョウは飼育のために外
国から移入された鳥ですが、今や全国各地でその野生化が問題になっています。カルガモ、
カワセミなど水辺の鳥、そしてカケス、オナガなどの出現頻度は平成 15 年になると減少し
ているようです。逆に、キビタキ、ホトトギスなどの観察例は増加傾向を見せています。
この一覧には反映されていませんが、個体数も考慮するとメジロも増加しています。こう
した変化は、種類数と個体数を併せて比較すると立体的に見えてきます。

(文責 桜岡 幸治)